

川崎市議会議員(麻生区)

<http://www.tsukimoto.info>

月本たくや

レポート【第7号】



月本たくやレポート編集部

〒215-0031 川崎市麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101

TEL : 044-986-6010 FAX : 044-986-6011 Email : mail@tsukimoto.info

2012年 新しい川崎市へ



スマートシティの先進事例視察

- ・日程：11月22日
- ・都市名：愛知県豊田市
- ・参加議員：月本琢也・小川顕正



環境モデル都市アクションプラン「ハイブリッド・とよたプラン」について、説明を受けた後、庁舎敷地内に設置されている太陽光電気スタンドとプラグインハイブリッド車（PHV、写真）を視察しました。

豊田市のスマートシティ事例は、民間と行政の方針が一致したとのことで、早期に計画が実行に移され、従来の市街地を核としたコンパクトシティの確立、それを結ぶバスの導入による自動車の交通量削減など、市民が利便性を実感できるスマート化を進めています。

スマートシティ、市域全体の検討へ

平成23年4月10日の川崎市議会議員選挙に当選以来、川崎市のスマートシティ実現を中心に活動を進めて参りました。

会派の代表質問や一般質問などの公式な場だけでなく、有志による勉強会の開催により、「スマートシティ」実現に向け、少しずつ進展しています。

9月15日の第4回定例会の代表質問に立った際の市長答弁で明らかになったのは大きく2点でした。

1点目は、スマートシティを川崎駅周辺に限定せず、市域全体に拡大すること。

2点目は、検討委員会の設立。

その後、11月25日に、川崎駅周辺のモデル事業に向けた、「川崎スマートコミュニティ事業委員会」がスタートしました。

12月19日の一般質問にて、再生可能エネルギーに限ったものではなく、エネルギーの効率利用やより賢い手法・技術という本来のスマート化の観点で、公共交通のスマート化について、韓国ソウル市の例を挙げて質問しました。総合都市交通計画の中で検討を進めるといふ、まちづくり局長の答弁が戻ってきました。

市域全体を考えるスマートシティのモデル事業については、(前出の)事業委員会での議論を踏まえ、次年度以降の実施につなげていきたいという、環境局長の前向きな答弁がありました。

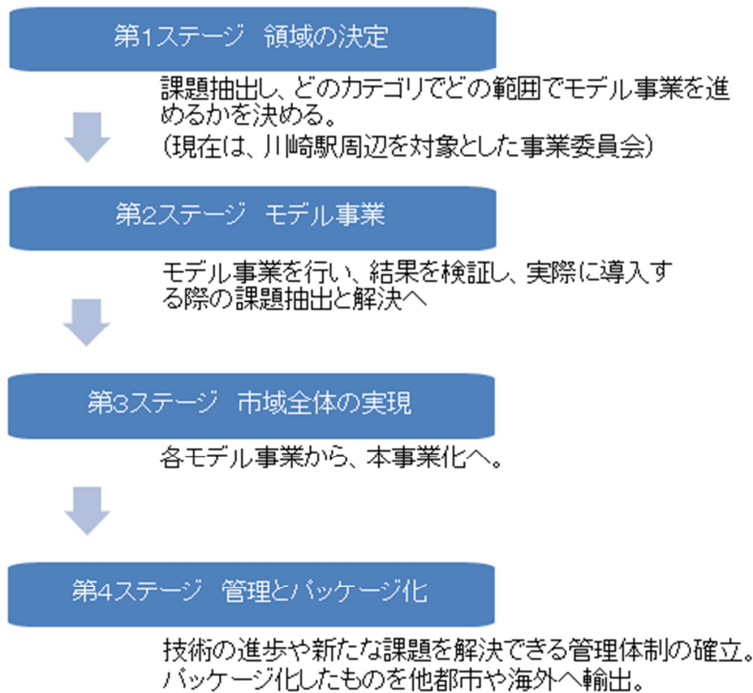
いよいよ、今年は、スマートシティの新しいステップです。ライフスタイルの変革を視野に入れた、川崎モデルのスマートシティ実現に、いま川崎は動きます。

川崎モデルのスマートシティ実現に向けて



9 月 15 日の代表質問に立つ月本たくや
このときの質問に、阿部市長は、市域全体のスマートシティを目指すことと、検討委員会（現在の川崎スマートコミュニティ事業委員会）の設立を明らかにしました。

スマートシティ実現に向けたイメージ（案）



スマートシティ「規格のグローバルスタンダード」

様々な都市でのスマート化を進める上で、規格の標準化が、世界的な争点となり、いわゆる「規格のグローバルスタンダード」をどこが握るか？という新しい経済競争が各地で進められています。

ただ技術が優れているだけでは、市内限定や一部の市場限定になり、拡大できません。

規格競争の身近なところと言えば、ブルーレイと DVD の争いは記憶に新しいですが、電力の周波数や電気プラグの形状も規格のひとつです。

IT 関連の規格をどのように標準化していくか？互換性のあるものも含め、どのように対応していくか？

国家間の争いから、企業グループ間、都市間など様々な形になっているので、川崎市のモデルをスタートさせると同時に、都市間連携や市内企業を核とした国内外の企業間連携など、先のステージがあります。

川崎スタンダードから、グローバルスタンダードへ。

民間の力を発揮できるよう、市がコーディネート機能を果たせるシステムづくりを進めて参ります。

月本たくやプロフィール

昭和 53 年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市市長 阿部孝夫 政務秘書、衆議院議員 山内康一 公設第二秘書（麻生区・国会担当）、みんなの党本部事務局（兼任）を経て、平成 23 年 川崎市議会議員初当選。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出） みんなの党川崎市議会議員団 副団長 みんなの党川崎市議会第 1 支部長
川崎市農業委員（議会推薦） 麻生区白鳥在住 家族：妻 血液型：A 型

月本たくや事務所

麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101 号
TEL 044(986)6010 FAX 044(986)6011

月本たくや

検索

